

英語本文は[こちら](#)

道路崩落を引き起こしたLNG事業に対する停止命令の執行を フィリピン農地改革省に要請

プレスリリース | 2022年12月7日

サステナビリティ・シンクタンクであるCEED (Center for Energy, Ecology, and Development) は、11月27日にバタンガス・タバタオ・イリハン・ロボを結ぶ道路の崩壊を引き起こしたリンシード・フィールド社 (以下、リンシード) およびエクセレント・エネルギー・リソース社 (以下、EERI) に対して発出された停止命令の現状報告を求める要請書を農地改革省 (DAR) に送付した。

CEEDは、両社の事業地をリースしているイリハン・プライムライン・ホールディングス社 (以下、プライムライン) に停止命令を送達した日付と方法、また受領証明について質問したのに加え、DARの命令にもかかわらず事業地の開発を継続したプライムライン、リンシード、EERIに対し、拙速な土地転換に関する刑事告訴を行うよう要求した。プライムラインは、8月8日に命令が発出されたにもかかわらず、10月20日に命令を受領したばかりだと主張している。

フィリピン共和国法第8435号では、「共和国法第8435号に基づき、拙速な又は違法な転換で有罪となった者は、その第11項に従い、2年から6年の懲役、または政府の投資費用の100%に相当する罰金、または裁判所の判断でその両方、及び土地とその上の構築物の没収という付加刑を科される」と規定されている。

CEEDの副事務局長であるAvril de Torresは、「停止命令が発出された二ヶ月後でさえ、そしてプライムラインが命令を受領した後でさえも建設が続いていたという証拠があるので、DARがこの件に関して至急行動することを期待します。」と述べている。

ヴェルデ島海峡を保護するために結成された連合、Protect VIPの一員であるCEEDは、DARの許可なく農地が転換されたため、関連企業による時期尚早の土地転換だとして申し立てを行った。同地域は、リンシードの液化天然ガス (LNG) 輸入ターミナルのために開発されており、EERIが所有するLNG火力発電所にガスが供給されることになる。

「建設が継続されていることは、停止命令の明らかな違反を示していますが、企業の工事作業により道路が崩壊したことで状況はさらに悪化しています。ステークホルダーはすでに違反を報告する義務を果たしています。私たちがDARに求めるのは、その義務を果たし、企業にコンプライアンスを遵守させることです。」とDe Torresは述べた。

EERIはサンミゲル社の子会社で、メラルコ社との電力供給契約 (PSA) をめぐり、先日控訴裁判所から一時差止命令を出されている。フェルディナンド・「ボンボン」・マルコス・ジュニア大統領自身が、控訴裁判所の決定を再考するよう嘆願したにもかかわらず、サンミゲル社とメラルコ社は12月6日 (火) にPSAを終了している。